

Rotary



WEEKLY NEWS 【8回】 2021-2022 年度

国際ロータリー第 2640 地区

週報

和歌山東南ロータリークラブ 通算 2399 回

会長:中曾真二郎 幹事:山田さち子 会報委員長:坂本武司

事務局 E-Mail : rotary@wakayama-serc.org http://wakayama-serc.org/

例会日 水曜日 例会場:ルメール華月殿 第1, 第2, 18:30~(夜) 第3, 第4, 第5, 12:30~(昼)



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

本日の例会
10月20日(水)
12:30~華月殿

- ・開会点鐘 中曾会長 ・ロータリーング 四つのテスト、結婚記念日お祝い ・出席報告(例会委員会) ・ニコニコ箱(寄付金)報告 ・委員会報告 ・外部卓話「今後の日米株式相場展望と投資戦略」岡三証券(株)和歌山支店 支店長 松口孝裕様
- ・閉会点鐘 中曾会長

先週例会報告 会場監督 松田敏明

ゲスト: RI 2640 地区 ガバナー 豊岡 敬様
ガバナー補佐 土屋一博様

《 会長挨拶 》 中曾真二郎会長

皆さんこんばんは。

本日は、第2640地区ガバナー 豊岡 敬(とよおかさとる)様、ようこそお越しくださいました。先程はありがとうございました。後程もどうぞよろしくお願い致します。

昨日は、熊本東南RCと姉妹クラブ委員長の中岡さんを中心にWEBミーティングを行いました。声が聞こえなかったりしたときもありましたが出席くださいました皆様ありがとうございました。熊本さんにお目にかかれてお元気な姿も見れて有意義な時間を過ごさせていただきました。

水道管の崩落からようやく水が通って通常の日常に戻ったのかなあとと思います。ご苦労なされた方々にお見舞い申し上げます。先週、皆さんで飲料水を持ってきてくださったのを欠席されていた会員の島本さんのところに届けに行ってきました。仕事で殺菌した水が大量に必要とおっしゃっていたのですが少しは足しになったのではないかと思います。皆さんによりよくお伝えくださいとのことでした。落ち着いたら例会に出てきてくれるのではないかと思います。



「熊本東南RCとのWEBミーティング」 姉妹クラブ委員会 2021年10月12日(火) 12:00~
参加者 熊本東南RC 6名、中曾会長、山田幹事、中岡姉妹クラブ委員長、
竹中姉妹クラブ副委員長、太田姉妹クラブ委員、神谷会員

本日の出席報告				寄付金	ニコニコ	米山記念奨学会	ロータリー財団	東南育英会	50周年記念BOX	
会員総数	35名	出席者	出席率							
出席免除会員	3名	10/13	23名	71.88%	累計	527,000	149,000	180,000	5,000	0

《 幹事報告 》 山田さち子 幹事

- ① 2件事務局に届いておりますので、各テーブルに一部置いてあります。ご一読頂き、御入用の方はお持ち帰り下さい。
 - ・米山梅吉記念館 館報 2021 秋号 Vol. 38
 - ・和歌山市内 9RC 共同事業「和歌山城ホール記念品寄贈負担金」をホスト RC 和歌山北 RC へお届けしました領収証。
- ② 和歌山城ホールオープニングセレモニーへのご招待について。
日時・場所：2021年10月29日(金) 10:00～11:00、和歌山城ホール 大ホール
和歌山市 文化振興課より入場チケット（自由席）が2枚届いております。
出席希望者は事務局まで。



《 ニコニコ箱 》 赤在依美 会計

- 中曾君：本日は豊岡ガバナー様、ようこそお越しくださいました。
どうぞ宜しくお願い致します。
- 松田君：豊岡ガバナー、ご来場、誠にありがとうございます。
- 竹中君：欠席続きですみません。
- 坂本君：豊岡ガバナー よろしくお願い致します。
- 赤在君：10/7 東京大手町コンサート、同時配信コンサートも無事出来ました。
感謝です。



《 米山記念奨学会 》

- 山田君・豊岡ガバナー よろしくお願い致します。
- 山口君：山本さん、奥村さん、先日はありがとうー。

《 ローターリー財団 》

- 神谷君：ポリオ根絶を支援しましょう！
- 竹中君：保田会員、先日はお世話になりありがとうございました。





2019年末からの新型コロナウイルスの世界的な感染流行は、ロータリーにも多大な影響を与えました。2021年2月にアメリカのオーランドで開催が予定されておりました国際協議会は、初めてオンラインによるバーチャル開催となりました。RIからは、2021年6月末までは、バーチャルでの対応を基本にするように指針が出されまして、「地区チーム研修」「PETS会長エレクト研修セミナー」「地区研修協議会」は、YouTubeによるライブ配信や冊子の配布による代替えとなりました。また、青少年交換プログラムについても、2022年6月末までの一時休止となり、その他プログラムにおいても例年とは違い、開催の取り止めや、オンラインでの対応となっております。

今後、ワクチン接種の普及によって、新型コロナウイルスの感染が終息することを願いたいのですが、変異株の感染流行などもあって、予断を許さないように思われます。

ロータリーの例会、奉仕、親睦においても安全・安心が第一です。しかしながら、休会続きであれば、会員さん達の心は自然とロータリーから離れていってしまいます。オンライン等を活用する等して、会員さん相互のコミュニケーションを維持するようにして下さい。

私は、本年度の地区スローガンを「広げようロータリーの光を！」としました。伝教大師・最澄の言葉に「一隅を照らすこれ即ち国宝なり」があります。ロータリアン一人一人は、その職業において、奉仕活動において、青少年の健全な育成において、世の中を明るく照らす光であると考えます。そして、世の中をよりよくするために、志を同じくする仲間を増やして、光の輪を広げていきたいと考えます。なお、元松原中ロータリークラブの泉本信彦会員が作詞・作曲した「奉仕の光」をテーマソングにさせて頂きました。ロータリーソングの一つとして長く歌い継がれることを望みます。

RI会長のシェカール・メータ氏は、本年度テーマを「奉仕しようみんなの人生を豊かにするために」(Serve to Change Lives)とされました。「奉仕するとき、誰かの人生だけでなく、自分の人生も豊かになります。」と言われております。またアルバート・アインシュタイン博士の言葉を引用して、「誰かのために生きてこそ、人生には価値がある」ともと言われております。日本でも「情けは人のためならず」と言われているように、他人に奉仕することが、まわりまわって自分自身の人生を豊かにし、心を幸せにするのです。メータ会長は奉仕に関して「もっと行動し、もっと成長する」とも言われております。

「もっと行動し」とは、より大きく、インパクトをもたらす奉仕プロジェクトを意味します。「もっと成長する」とは、会員を増やし、参加者基盤を広げることを意味します。過去17年以上、ロータリーの会員数は120万人のまま横ばいとなっています。メータ会長は、2022年7月1日までに会員数を130万人に増やすことを目標としています。メータ会長はインドのカルカッタ出身です。ロータリーもライオンズもインドでは順調に会員数を増やしており、特にライオンズは昨年2020年12月末迄の上半期だけで3万人の純増を達成しているそうです。その一方でロータリーは、アメリカや日本では会員の減少に歯止めがかからず、全世界では120万人のままとなっています。2640地区は、かつては3000名を超える会員数がありましたが、現在は1650名まで減少しています。メータ会長が言われるように奉仕の原動力は、我々ロータリアン一人一人であり、会員数を増やすことで世の中を良くしていく力を付けていくこととなります。地区ビジョンの中にも明記させて頂きましたが、まずは地区の会員数を早期に1800名まで回復させることを目指します。

ロータリーの中核的価値観の1つが多様性であります。多様性の中でもRIは特に女性に焦点をあて、会員の3割以上、ロータリーのリーダーの3割以上を女性にすると目標を立てています。2640地区では、女性会員の割合が7.7%と少ないですが、世界では女性会員の割合が23%になっています。元々ロータリーは男性社会で、女性がロータリーの会員になれるようになったのは、1989年のことです。

日本では、元号が昭和から平成に変わったタイミングですから、そんなに昔のことではありません。その後ロータリーは多様性を認め女性会員の人数は増えていきました。2022-2023年度には、ロータリー115年の歴史で初めての女性RI会長ジェニファージョーンズ会長が誕生します。ロータリーの奉仕の理念や価値観を共有できる方を増強して、その結果女性会員が増えることを願います。また若い人や外国から来日された人等、多様なバックグラウンドがある会員の増強に努めていきます。

シェカール・メータRI会長は、広く一般の市民も参加できる、ロータリー奉仕デーの実施を呼び掛けています。従来のロータリーは、公共イメージの向上に力を入れてこなかったため、世間一般での知名度は高くないです。広く一般の市民の方が参加できるロータリー奉仕デーの企画・実行を行い、ロータリーの公共イメージの向上に努め、ロータリーの奉仕の素晴らしさを実感された方を新たな仲間としてクラブに迎え入れてください。ロータリー奉仕デーの定義は、2つ以上のロータリークラブ、ローターアクトクラブ、インターアクトクラブによって計画されたものであり、ロータリー7つの重点分野のうち1つ以上に一致しており、参加者の少なくとも25%は、現ロータリーの会員ではないこととされています。

昨年11月にRI理事会に初めてSRF（ロータリーの未来形成）が報告されました。現在のロータリーの地区やガバナーは十分に機能していないとして、今後10年をかけて、ロータリーの組織を変えていく計画です。地区を廃止し、リージョンとセクションを設置してくそうです。日本1国で1つのリージョンとなり、102のセクションを配置していくそうです。

現在は、日本国内34地区なので、地区が三分の一に分割されるイメージです。2022年の規定審議会では、SRFのパイロットリージョン案が上程される予定になっております。

SRFの目的は、RIの中間組織の簡素化によってフラットで風通しのよい組織に再構築するとされていますが、日本のロータリーでは、非効率な組織構造のままRIの中央集権型の構造は残ってしまうとして、否定的な意見も多いようです。今後の規定審議会において、どのようになるのかは分かりません。地区情報規定委員会より、新しい情報が分かり次第お知らせさせていただきます。

ロータリー財団と米山記念奨学会への寄付のお願いをさせていただきます。ロータリー財団は、1917年に6代目RI会長アーチクラフの「世界でよいことをしよう」との呼びかけで、最初の寄付26ドル50セントから始まり、100年後の現在では10億ドルを超える財団に成長しています。継続的に奉仕を行うためには、安定した資金が必要です。ロータリー財団へのご寄付をお願いします。

ロータリー財団のプログラムの中にポリオプラスがあります。1979年にフィリピンで児童への経口ポリオワクチンの投与が行われ、1985年にポリオプラスキャンペーンが始まり、世界からポリオを根絶するために財団への寄付が活用されました。昨年アフリカでのポリオ野生株の根絶がWHOで確認されました。あと残すは、アフガニスタンとパキスタンの2か国だけです。アフガニスタンでは、今年の8月に政変がおり、タリバンが実質政権を奪取しています。混乱の中でアフガニスタンにおけるポリオプラスがどうなるのか？心配をしておりました。McGovern ポリオプラス委員長からの報告がありまして、実は早い段階からタリバンとは接触をされていたようです。2021年1月17日にWHOとユニセフの地域役員がドーハにあるタリバン事務所に集まり、ポリオワクチン接種への協力を要請しています。首都カブールが陥落したのが8月15日ですが、その1週間後にはタリバンの支援のもとロードサイドでのポリオワクチンの接種が始まったと聞いています。アフガニスタンには、タリバン以上に過激な組織もありますので、治安が維持されるのか、ワクチン投与が継続できるのか不透明ではありますが、

地球上からポリオを根絶するまであと一步のところまで来ています。引き続き、ポリオプラスへのご支援もお願いします。寄付目標は、年次寄付一人当たり180ドル、ポリオプラス寄付30ドルでお願いします。

米山梅吉翁の遺徳を記念する事業として1952年に東京ロータリークラブは、日本で学ぶ外国人留学生を支援する国際奨学事業を始めました。これが今日のロータリー米山記念奨学会事業の始まりです。米山奨学生は、日本と母国の架け橋となる人材を選考していきまして、この50年間に累計で2万人、出身国は120を超える国と地域になります。寄付目標は、米山普通寄付を一人当たり6,000円、米山特別寄付を一人当たり10,000円とさせて頂きました。

日本国内34地区は、ロータリー財団への寄付と米山奨学会への寄付ゼロクラブゼロを目指しております。奉仕の原資として寄付をすることは当然のことなのですが、34地区で足並みを揃えるためにも、ゼロクラブゼロを目指していきたいと思っております。どうぞ、上半期のうちに些少でもご寄付して頂くことをお願い申し上げます。

私はロータリーの最大の奉仕は、人創りだと思います。米山奨学生やローターアクト、インターアクト、青少年交換学生、RYLA研修生の育成を通じて、世界でよいことを実践する人材を輩出することが使命だと思います。一方我々ロータリアンも自己研鑽を積み成長していくことが必要です。米山梅吉翁は、「ロータリーの例会は人生道場である」と言われています。ロータリーに参加することにより、切磋琢磨し、人間として成長していきましょう。また次世代のロータリアンの育成に尽力する必要があります。2640地区では、RLI (Rotary Leadership Institute) を開催します。RLIは、国際ロータリー公認のプログラムではありませんが、国際協議会でも導入されているファシリテーター方式によりロータリーを理解するプログラムです。けして、単なる会議の進め方ではありません。RLIのプログラムの中には、DL (Discussion Leader) の存在が重要であり、2640地区ではDLの育成に重点をおきます。各クラブにおいて、将来を担う人材をRLIとDL研修に出して頂くことをお願いいたします。

2640地区では、戦略委員会にて地区の中期ビジョン、アクションプランなど直前ガバナーを委員長とし、パストガバナー、ガバナー、ガバナーエレクト、ガバナーノミニと共に検討しています。各クラブにおいても、どんなクラブにしたいのか、どんなクラブであるべきなのか、どんなクラブを目指すのか、クラブの柔軟性、継続性において検討をお願いします。クラブの将来ビジョンに基づいて、実行すべきことを考えて行きましょう。

ロータリーの生みの親である、ポールハリスは、生まれはウィスコンシン州ですが、子供時代から青年期を東海岸のバーモント州で過ごしました。最初に入学した大学はバーリントン市にあるバーモント大学です。私もポールハリスの100年後、同じバーリントン市で学生時代を送りました。バーモントは、本当にのんびりとした田舎で、人の数より牛の数の方が多いと言われています。そんなバーモントの田舎から、マフィアのアルカポネが暗躍する大都会シカゴで弁護士事務所を開設したポールハリスは、殺伐としたシカゴで本当に信頼できる友人を得るためにロータリークラブを設立しました。ポールハリスは、ロータリーの例会に出席すると「童心に還る」と言われております。きっと想いは子供時代を過ごしたバーモントの田舎に戻るのでしょう。ですから、ロータリーの原点は、無邪気な子供の頃のように友情と親睦を楽しみ、信頼できる一生の友人と出会える場なのだと思います。

もう一度、地区スローガンに戻りますが、「広げようロータリーの光を！」、ぜひロータリーの友愛の光を広げて、志を同じくする仲間を増やしていきましょう！



鯨坂ソング委員長
♪ロータリーソング♪「花になろう 鳥になろう」



親睦委員会の皆様でお出迎え



「ゲスト紹介」平 親睦委員長